



夢に生きたん

Takeokadai High School
進路指導部 第 6 号
発行日 R1. 11. 14 (木)

いまや入試に不可欠！小論文について知ろう！！

今年の秋も、放課後の職員室では推薦入試やAO入試に向けて小論文の指導を受ける3年生の姿が多く見られます。もちろん1・2年生にとっても他人事ではありません。教科の学習と同様、今のうちから小論文を書くための準備・練習を始めておく必要があります。そのため、1・2年生は12月からLHR・国語の授業において、小論文の学習が始まります。いまや多くの入学試験で出題されている小論文。今回は小論文の基本について学習しましょう。

■なぜ、小論文が入学試験で出題されるのか

大学・短期大学・専門学校は、教えてもらう受動的な勉強だけでなく、自分でテーマを見つけ、それを研究していくところです。そのためには、教科書に書いてあるような事柄でも、「本当にそうだろうか？」と疑問を持ち、自分から進んで「これはなぜ起こるのだろうか？」「この問題の背景にあるのは何であろうか？」「どうすればこの問題を解決できるのだろうか？」というように、学問のテーマを見つけなければいけません。大学・短期大学・専門学校は、まさにこのように自ら学問のテーマを見つけ、それを調査・研究して考えた結果を論理的に表現できる学生を発掘するために小論文を課すのです。

■小論文と作文の違い

小論文に取り組む前に誰もがぶつかるのが「そもそも小論文って何？」「作文とどう違うの？」という疑問でしょう。作文と比較することで、小論文とは何かを確認しましょう。

小論文

意見＝私はこう考える。
理由＝なぜなら～だからだ。
で成り立つ文章



作文

体験や**感想**を
書いた文章

小論文は、問われていることに対して「私は～と考える。」という意見を述べ、「なぜなら、～だからだ。」という理由（論拠）を筋道立てて説明し、相手を説得する文章のこと。論理性や説得力の高さなどにポイントが置かれる。

作文は、「～だと思ふ。」「～して楽しかった。」など、ある出来事から自分の心境や感想を述べた文章のこと。文章の流れ、感性の豊かさ、表現のうまさなどにポイントが置かれる。

例題 〈テーマ：運動会〉

【小論文】 小学生のうちから競争させ、順位づけするのはよくないと、運動会自体を廃止する学校があるという。だが、私はこれには反対だ。

なぜなら、運動が得意な子の個性発揮の場を奪うことになる、と考えるからだ。子どもたちが学校で過ごす中で、算数が得意・不得意、歌をうたうのが上手・下手など、誰にも得意や苦手が …

【作文】 私は先日の運動会で、クラス対抗のリレーに出場しました。2位で受けたバトンを持って懸命に走り、1位になりました。前の人を抜いたときはとてもうれしかったです。 …

■小論文に必要な4つの力

よい小論文を書くためには何が必要なのでしょう？それは次の4つの力です。



読解力

設問・資料を客観的に読み取った上で、その背景にあるものまで読みとる力。小論文における読解力とは、現代文で養成する読解力とは違い「論じるための読解」である。

発想力

資料に疑問をぶつけたり、自分なりの問い・具体例・アイデアなどを考えたりする時に使う力。

論理的思考力

発想力を使って洗い出した課題に対する自分の意見や理由（論拠）を筋道立てて組み立てる力。

表現力

自分の考えを表現して読み手に伝える力。

これら4つの力は、小論文を書くために欠かせない力です。そして、その土台となるのが、他の誰でもない「自分自身」。自分の中に持っている経験やそこから得た実感、また教科の知識、社会の出来事に対する知識、志望する学問の知識が、「小論文を書くための材料」になります。

■小論文の書き方の基本5ステップ

いよいよ小論文を書く…というスタート地点です。一体どうやって考えて何を書けばいいのだろう？それには次の5ステップを踏みましょう！

(1) 何を書けばいいのかをきちんとつかむ

「問われていること」は何かを読みとって、設問の条件を確認し、出題者の意図をつかむ。

(2) 資料を客観的に読みとる

資料として文章を与えられることが多い。重要箇所（特に、筆者の意見とその理由〈論拠〉）に注意しながら読むことが大切。

(3) 自分の考えを深め、固める

問いに対して、疑問をぶつけたり、視野を広げたりして、自分の考え（意見）が出るまで考える。そして何を書くのかを絞り込み、しっかり決める。「意見」と「理由（論拠）」の形にしておくとうい。

(4) 考えを整理し、論文の流れを決める

自分の意見とその理由（論拠）の筋道を考えながら、文章の流れを決め、その上でざっと自分でチェックしてみる。

(5) 意見と理由（論拠）をわかりやすく書く

文章の流れをつかんだら、段落分けをしながら文章にする。わかりやすい表現を心がけ、原稿用紙の使い方に注意して書く。



まず、何が求められているのかを見抜き、自分の頭で考えて独自の意見を打ち出し、それをいかに効果的に伝えるかを考える、という一連のステップを踏んでから、実際に小論文を書き始めてみましょう。